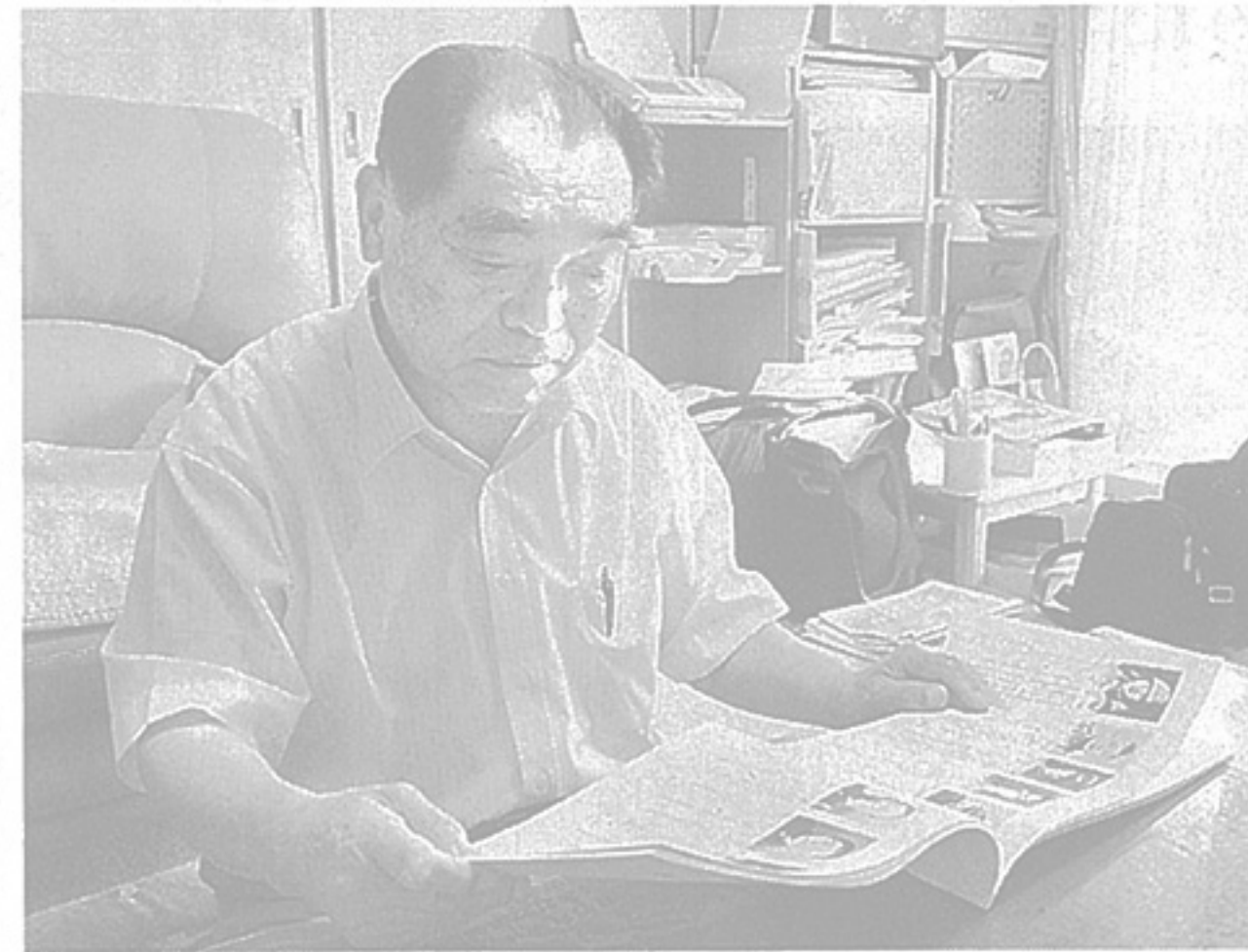


きよつ終戦の日

68回目の終戦の日の15日、日本武道館(東京・千代田)で全国戦没者追悼式が開かれる。太平洋戦争で父を亡くし、今回初めて参列する遺族の藤田保正さん(80)は、東京電力福島第1原発事故で福島県浪江町から郡山市へ避難を余儀なくされている。戦争と原発事故の悲惨さを重ね「平和と安全のために核兵器や原発をどうしていくのか。真剣に考えないといけない」と訴える。

陸軍兵だった父の保正さん(当時30)は1944年8月、乗船した帝亜丸がフィリピン沖で撃沈されて戦死した。保正さんは当時小学5年生。「わんぱくだったので、おやじによくしかられた。まじめで一生涯懸命な人だった」と振り返る。

「平和・原発 真剣に考えて」



浪江町の自宅は福島第1原発から約8キロの地点にある。2011年3月11日の東日本大震災発生翌日、町役場から指示があり、妻と一緒に避難のみ着のまま町外に避難した。「原発に異常が起きていた妹夫婦の行方は今も分からない。過疎化や高齢化が進む」と振り返る。

福島で避難生活 80歳男性が追悼式へ

福島県浪江町の戦没者の資料に目を通す藤田保正さん(福島県郡山市)

ふるさと。地域経済に役立つと考え、原発推進を訴えたこともあった。「人間は原発を制御できなかった。経済効果ではなく安全が何より重要だ」と今は強く思う。昨年の一時期帰宅で持ってきた先祖の位牌(いはいに毎日手を合わせる。初めての戦没者追悼式参列にも「帰郷の見通しが立たず、おやじによい報告はできない。ただただ『安らかに眠ってくれ』と伝えたい」。約310万人の戦没者の冥福を祈る追悼式には天皇、皇后両陛下、安倍晋三首相ら約7千人が参列予定。「避難者として感じていることを次世代に伝え、人間を大切にす平和な社会の実現を訴えたい」と話した。

希望という名のデュオ

イスラエルとパレスチナの2人来日



イスラエルとパレスチナ。悲しみの歴史を背負った若手演奏家が組んだ男性ピアノデュオが、CD収録のため来日した。デュオ名は「アマール」。アラビア語で「希望」という意味だ。「素晴らしい音楽は政治や国家の壁を乗り越える」という信念を伝えようとする活動は、世界で話題を呼んでいる。

「音楽は壁

「アマール」のハベルクさん(東

葬儀解約したい・お墓の費用不安

人生の「終活」トラブル

相談増える

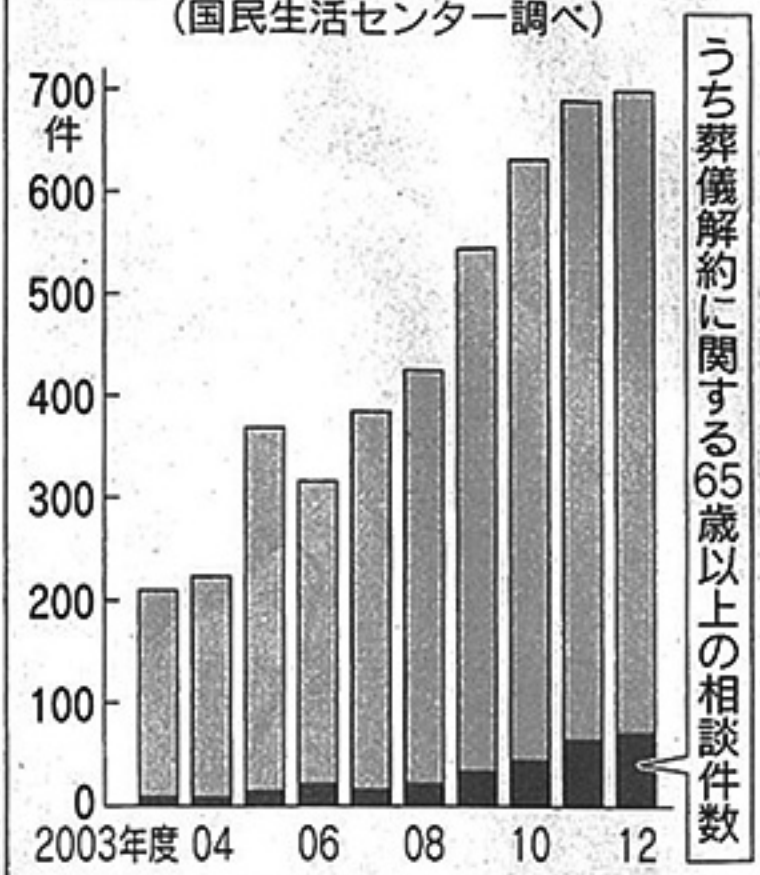
「人生の最後を自分らしく」と葬儀や墓などを準備しておく「終活」が話題を呼ぶ中で、契約をめぐる相談も目立ってきた。一人暮らしの高齢者や老夫婦が「周りに迷惑を掛けたくない」と生前に契約してトラブルになる例もあり、消費者庁は6月に公表した初の消費者白書で取り上げ、注意を呼び掛けている。

国民生活センターによると、全国の消費生活センターなどが2012年度に受けた葬儀に関する相談は約700件と過去10年間で最多となり、03年度の3倍超だった。「親の葬儀で予想以上の金額を請求された」など本人以外の死に関するケースが中心だが、中に

は「自分の葬儀を事前契約したが解約したい。返金されるのか」といった終活の相談もある。65歳以上からの葬儀解約をめ

「墓や葬儀の出費は高額。できれば事前に複数の業者に見積もりしてもらって」と助言する。終活の講座を開く一般

葬儀に関する相談件数は増加



うち葬儀解約に関する65歳以上の相談件数は、国民生活センターによ

光



原子レベルで量子効果)を利用のうち1つの光子にも1つの光子が技術。人や物がシオンになぞらえ能な暗号通信